



東京全労協

2013年6月24日 56
 東京都港区新橋6-7-1
 川口ビル6F
 TEL. 03-5403-1650
 FAX. 03-5403-1653
 発行人 瀬藤 朗
 定価 1部 10円

怒り渦巻く沖縄 「2013平和行進」 反戦平和学習に参加して

1月27、28日、沖縄県地方6団体は、普天間基地の県外移設と辺野古新基地建設反対としてオスプレイ配備反対を「オール沖縄」の改革を超えた県民総意の「建白書」として携え、安倍総理に提出するため上京しました。

しかし、安倍政権は、その沖縄の民意を一顧だにせず、直後にオスプレイ配備を強行し、また、沖縄を切り捨てた「屈辱の日」1952年4月28日を「主権回復の日」として記念式典を行ったのです。

日本の主権は本当に回復しているのでしょうか、わが国は真の独立国と言えるのでしょうか、安倍政権が強行した4・28「主権回復の日」式典は、私たち自身に問いかけました。

この日は、本土の私たちにとっても、戦後67年の現在も続く日米安保体制の下で、対



米従属政治が始まった「屈辱の日」と言えます。

このような怒り渦巻く沖縄に、講和61年、復帰41年、第36回平和行進と、反戦・平和学習のために、総勢35名(全労協20名)は、今年も沖縄行動に取り組みました。

その那覇市役所周辺では、星条旗と日の丸を掲げた宣伝カーが周回し、翁長那覇市長に対する個人攻撃を執拗に繰り返していました。

「那覇市役所に「オスプレイ配備撤回」の旗

私たちの宿泊先であるビジネスホテル近くの那覇市役所は、庁舎建替え工事が完了して新庁舎となり、庁舎入口のシーサーには「オスプレイ配備撤回」の赤い桃太郎旗が掲げられています。

元自民党沖縄県連幹事長の翁長那覇市長は、オスプレイ配備に反対する9・9

平和行進最終日、南コープの普天間基地第二ゲート

沖縄県民大会の共同代表の一人であり、1月27日東京日比谷野音の集会では、「沖縄は変わりました。もう元には戻りません。どうか日本政府も変わって頂きたい」「補助基金はいらない、基地撤去を」と発言しています。

その那覇市役所周辺では、星条旗と日の丸を掲げた宣伝カーが周回し、翁長那覇市長に対する個人攻撃を執拗に繰り返していました。

5月17日、名護市辺野古新基地建設反対の座り込みデモには、「海上基地建設阻止・闘争開始より8年(2639日)の命を守る会の闘いと座り込み」316日の看板が建てられています。

また、北部東村高江のオスプレイパッド(ヘリ基地)反対デモや、普天間基地に隣接する佐喜真美術館では、傍若無人に飛行するオスプレイの訓練に怒る退職者や女性たちによる抗議行動が、連日普天間基地各ゲートで、早朝から取り組まれていることが報告されました。

前の抗議行動では、ゲート入口の金網に抗議のリボンが多数結び付けられ、そこには、「日本人のみならず、基地は持ち帰りましょう。」「基地は安保をなくすまで、日本本土へ!」と書いた掲示物が括りつけられていました。

「沖縄はもう待てない!」にどう応えるのか

9・9 沖縄県民大会事務局長の玉城義和県議は、「基地の前で油をかぶって死ぬわけにもいかない。これ以上どうしろというのか」とのが私の率直な気持ちです。」と話され、米軍基地問題の真の解決には安保条約改訂が必然であること、安保条約改訂の取り組みには、沖縄が直面している県民生活・経済の視点から重要であると提起していると聞きました。

全国から米軍基地をなくすには、真の主権国家として独立・自主の日本をとりもどす外交政策を実行できる「政権」の樹立こそが必要ではないでしょうか。

そのためには、労働運動が中心になって国民的運動を盛り上げなければなりません。私たち労働組合に課せられた任務は重要で、急がれることをこれほど痛感した沖縄行動はありませんでした。みなさん、それぞれの現場で必死に奮闘しようではありませんか。

東京全労協 中原純子

第84回日比谷メーデーは、5月1日に日比谷野外音楽堂で開催し、約8千人の参加で成功を勝ち取ってきました。

今年の式典議長は、藤村妙子さん(大田区職労)と宮崎浩則さん(国労東京)が行いました。冒頭、議長団より震災被害者に対する黙祷が行われ式典が始まりました。

決意表明は、非正規労働者から後呂良子さん(東部労組メトロコマース支部)、外国人労働者からラフィーさん(APFS労働組合)、反戦・平和運動から山城博治さん(沖縄平和運動センター事務局)、争議関係から佐々木史郎さん(全統一労働組合書記長・けんり総行動実行委員会事務局)から訴えがありました。

今13春闘は、政権交代し

た安倍首相のデフレ・円高不況からの脱却策とした「アベノミクス」が強行され、円安による大企業の利益が上がったものの、中小企業の改善につながらず賃金格差が拡大され、地方公務員にも国並み賃上げが強行される状況でした。

日比谷メーデーでは、中小労組、非正規労働者、未組織労働者、外国人労働者等による怒りとすべての労働者の労働条件全般の改善、「首切り自由」を許さない闘いが課題となりました。

また、原発の再稼働に反対する、特別スローガンでもある「脱原発」「震災復興支援」に加え、「憲法改悪反対」「オスプレイ配備反対」など反戦・反基地のプラカードやゼッケン、横断幕も数多く出され、デモのシュプレヒコールもその内容が訴えられました。

今年も統一メーデーは実現せず、今日の「分裂メーデー」が固定化されています。もう一度労働者の一層幅広い結集と闘いの広場が求められています。このことは、日常的・恒常的に課題別共闘などを通じてながら訴えていくことが必要です。引き続き、労働者全体の統一メーデーの実現に向けて奮闘しよう!!

第84回日比谷メーデー
8千名の結集で成功!

HIBIYA 84th MAY DAY
働く者の生活と権利、平和に民主主義を守ろう
働く者の生活と権利、平和に民主主義を守ろう
働く者の生活と権利、平和に民主主義を守ろう

第84回日比谷メーデーは、5月1日に日比谷野外音楽堂で開催し、約8千人の参加で成功を勝ち取ってきました。

今年の式典議長は、藤村妙子さん(大田区職労)と宮崎浩則さん(国労東京)が行いました。冒頭、議長団より震災被害者に対する黙祷が行われ式典が始まりました。

決意表明は、非正規労働者から後呂良子さん(東部労組メトロコマース支部)、外国人労働者からラフィーさん(APFS労働組合)、反戦・平和運動から山城博治さん(沖縄平和運動センター事務局)、争議関係から佐々木史郎さん(全統一労働組合書記長・けんり総行動実行委員会事務局)から訴えがありました。

今13春闘は、政権交代し

第84回日比谷メーデー
8千名の結集で成功!

HIBIYA 84th MAY DAY
働く者の生活と権利、平和に民主主義を守ろう
働く者の生活と権利、平和に民主主義を守ろう
働く者の生活と権利、平和に民主主義を守ろう

首切り自由は許さない！

5・15霞が関大行動

5月15日、東京地裁、東京高裁の前に、レッドカードを手にした700人を超える労働者が結集しました。「首切り自由は許さない」「首切り自由を容認する司法反動は許さない」という切実な思いを込めた赤色の「請願書」を、労働者一人ひとりが地裁・高裁に提出するとともに、首切りを容赦なく行う企業、関連行政に要請抗議行動が展開されました。

「首切り自由は許さない」は許さない！5・15裁判所包囲霞が関大行動」はけんり総行動実行委員会と東京争議団共闘会議の両団体が呼びかけ、多くの労働組合、争議団体等が参加する実行委員会のもとでの共同行動として取り組まれました。

この日提出された請願書は短期間にもかかわらず高裁宛は2415枚、地裁宛は2308枚に上りました。

安倍政権のもとで労働規制の緩和攻撃が強まる中で、「霞が関大行動」はその反撃の取り組みとしても意義のある取り組みでした。



NTT職業病闘争と闘う木下孝子さんが司会を務めた(2013年5月15日)

北部労協 職場闘争報告

「13春闘行動」

セフテック社前集会

4・19春闘第三波行動セフテック社前集会は、春闘恒例の東伸社社前集会と新聞輸送構内集会の間に組んで頂きました。

8年振りになる東大赤門前での集会は、各労組の支援により、100名を優に超える集会でした。結果ありがとう御座いました。

一方会社側は、ここ数年で人員が入れ替わり、社前集会の経験者が少なく対応に迷っていたのか？10F建本社ビル8Fの総務部へ申し入れたのですが、エレベーターが上へ下へ乱高下。ようやく現れた副社長に対して「組合役員の勤務地についての団交を誠実に行え！」と申し入れました。その中で副社長が「組合の方が怒鳴ってばかりで交渉にならないんだ」と言うので、じゃあ次回、副社長出席の上で、ご希望に沿った団交にしましょう・・・と約束し行動を終えました。

しかし、その後団交を行いました。副社長は出席せず、何の権限もない労働と雑談程度のものでした。

労働が、自分の権限で言ったのは、「会社の駐車場に集会をやるのは構わないが、煙草は奥の吸殻入れの所で」とのこと・・・。次回は、奥の喫煙所をお願いします。組合は、実質的な条件を

勝ち取るため要求書を提出し団交を申し入れています。会社は、権限を持たない労働者を出席させ、組合の質問には一切答えません。この労働者は、「組合員間で個々の賃金を教え合うな！」と団交で発言した人です。そんな労働者に団交をやらせる経営者自身は、自分の事しか考えられない。労働条件については、従業員に通告するだけ。何か交渉されて

6・9米軍横田基地反対集会・デモ行動を取り組む

去る6月9日、東京全労協と全国一般東京労組の呼びかけで「6・9米軍横田基地反対集会・デモ」を取り組み出来ました。

JR牛浜駅から近くの福生公園に結集し、14時からスタート集会を開催しました。開会にあたり主催者挨拶として、東京全労協・久保事務局長は「2週間ほど前に5・15沖縄平和行進を東京全労協と東京労組の仲間と取り組んできた。沖縄



も困るから団交に出席しない。集会で「セフテック経営者は、さもない！さもない！」と共闘組合からの連呼が響いていました。こんな会社の対応についての事なのでしょいか？

兎も角、この様な会社と4年以上闘い続けている組合です。良い時も嫌な時も乗り越えて来ましたが、今後も、世代を超えて闘い続けて行く決意です。



では連日厳しい闘いが取り組まれている、私たちも東京で出来る闘いを取り組もうと昨年のフィールドワーク、そして今日の行動になった。暑い中での取り組みになります。最後まで貫徹して行きましょう」と訴えました。

引き続き、参加労組・団体からそれぞれの取り組みなどの報告を受けた。また沖縄一坪反戦地主会からは、

地域デモ・社前座り込みの連続行動で

親会社フジビ会長、交渉に出席！ 組合は4項目の要求を提出！

6月4日午前10時から、荒川区内公共施設において、富士美術印刷(フジビ)田中正昭会長が出席し、争議解決に向けた第1回交渉を行いました。

昨年9月の子会社・フジ製版破産以来9ヶ月、解雇された組合員の要求に応じて、初めて親会社の田中会長が話し合いの席に着き、組合は4項目の要求(組合への謝罪、解雇された組合員の生活補償、フジビへの雇用、労使関係正常化)を提出しました。田中会長は「弁護士に相談するので時間がほしい」と回答し、交渉は継続となっています。

組合は、この要求にもとづき、一致団結して行動していきます。全面解決に向け、皆様の一層のご支援をお願いいたします。



沖縄での闘いの報告がされました。

15時にはデモ隊列を作り、横田基地をめざしてデモ行進がスタートしました。

「オスプレイはいらない」「米軍基地はいらない」など暑い中、シュプレヒコールをあげてデモ行進をしました。

した。横田基地ゲート前ではゲートが塞がれおり、要請書を読み上げて行動を行ってきました。

引き続き解散地点の公園までデモ行進を行い、東京全労協・久保事務局長のまとめの挨拶と団結ガンパロウで行動全体を終わりました。